

事後評価シート

【評価年月】 平成15年4月

【主管課・室】 環境安全課

【評価責任者】 環境安全課長 安達一彦

施策名、施策の概要及び予算額

施策名	- 7 - (3)リスクコミュニケーションの推進
施策の概要	化学物質の環境リスクに係る安全・安心な暮らしに向けて、PRTRデータの集計・公表及び有効利用や人材育成・活用等を通じて、環境リスクに関するリスクコミュニケーションを推進する。
予算額	331,416千円(14年度予算)

目標・指標、及び目標の達成状況

目標	PRTRデータの集計・公表及びその有効利用を図るとともに、化学物質に関するリスクコミュニケーションに資する人材育成・活用や場の提供を行う。
達成状況	平成15年3月にPRTRデータの第1回の集計・公表を行うとともに、その結果等を環境省のホームページ上に掲載した。また、化学物質に関するリスクコミュニケーションに資する人材(化学物質アドバイザー)を育成・登録して派遣を開始するとともに、市民・産業・行政等の代表からなる「化学物質と環境円卓会議」を定期的 に開催した。

下位目標1	PRTRデータの円滑な集計・公表等を行い、環境リスクの理解に有用な情報を提供するほか、環境リスクの管理やリスクコミュニケーションなどに幅広く活用する。		
指標	H14年度	目標値	終期なし
PRTRデータの集計及び公表(回数)	PRTRデータの集計及び公表(第1回)		毎年1回公表
達成状況	平成14年度より事業者(約3万5千事業所)からの排出量等の受付を開始し、また届出対象外の排出源からの排出量の推計を行い、第1回の集計結果(平成13年度PRTRデータ)を平成15年3月に公表するとともに、当該結果等を環境省ホームページに掲載した。また、公表日以後、個別事業所データの開示請求への対応を開始した。		

下位目標2	化学物質に関するリスクコミュニケーションに資する人材(化学物質アドバイザー)の育成・活用を行うとともに、化学物質に関する対話の場として、市民、産業、行政等の代表からなる「化学物質と環境円卓会議」を定期的開催する。		
指 標	H14年度	目標値	終期なし
化学物質アドバイザー登録人数(人)	18人を登録		社会的な要請等により適宜人数を拡充(要すれば当面約50名まで拡充)
「化学物質と環境円卓会議」開催回数(回)	4回開催		当面、定期的開催
達成状況	化学物質アドバイザーについては、社会的な要請等に鑑み、初年度としては適当な人数を確保できた。また、「化学物質と環境円卓会議」については、4回開催(この他、地域フォーラム1回開催)した。		

評価、及び今後の課題

評 価	<p>【必要性】(公益性、官民の役割分担等)</p> <p>現在、化学物質やその環境リスクに関する市民の理解や市民・産業・行政等のリスクコミュニケーションが十分に進んでいるとは言えず、また、平成14年度より、法に基づきPRTRデータの届出・集計・公表等が開始されたことから、PRTRデータや化学物質による環境リスク等を正しく理解して自主的な化学物質による環境リスクの低減の取組を促進するために早急にリスクコミュニケーションの推進体制を構築・整備して、その円滑な運用を図る必要がある。また、そのための基盤整備として、PRTR制度の円滑な運用及びPRTRデータの精度向上が必要である。</p> <p>【効率性】(効果とコストとの関係に関する分析等)</p> <p>(下位目標1)</p> <p>約3万5千事業所からの届出データ等関連する膨大なデータを、外部請負等を活用しつつ、共管省庁と緊密な連携を図りながら必要最小限度の資源により効率的に集計・公表した。</p> <p>(下位目標2)</p> <p>外部請負や環境省のホームページ等を活用しつつ必要最小限の資源により効率的に行った。</p> <p>【有効性】(達成された効果等)</p>
-----	---

	<p>【目標に対する総合的な評価】</p> <p>下記のとおり当初目標どおり着実に実施した。</p> <p>しかしながら、これら取組は緒に就いたところであり、P R T Rデータの精度の向上、データ集計・公表システムの改良等改善すべき課題が残っており、また、化学物質やその環境リスク等に関する市民の理解や市民・産業・行政等のリスクコミュニケーションも十分に進んでいるとは言えない。</p> <p>【下位目標1】</p> <p>平成15年3月にP R T Rデータの第1回の集計・公表を行うとともに、その結果等を環境省のホームページ上に容易にかつ分かりやすく活用できるよう新たにP R T R関係のHPを掲載したところであり、当初目標どおり着実に実施されている。</p> <p>しかしながら、まだ1回しか集計・公表されておらず、P R T R制度の定着とそのデータの有効活用を推進するためには、引き続き、届出対象事業者への算出方法・届出方法の周知徹底を図るとともに、今後は、届出対象外の排出源からの排出量の推計方法等の改良によるP R T Rデータの精度の向上やデータ集計・公表システムの改良等に取り組むことが必要である。</p> <p>【下位目標2】</p> <p>化学物質に関するリスクコミュニケーションに資する人材(化学物質アドバイザー)として18名を育成・登録して派遣を開始するとともに、市民・産業・行政等の代表からなる「化学物質と環境円卓会議」を期間内に4回(その他地域フォーラム1回)開催したところであり、当初目標どおり着実に実施した。</p> <p>しかしながら、これら取組は緒に就いたところであり、十分に進んでいるとは言えず、今後は、これら取組を充実・強化して推進することが必要である。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>(下位目標1)</p> <p>法に基づく年間取扱量の変更</p> <p>平成15年度から届出対象となる第一種指定化学物質の年間の取扱量が5トン以上から1トン以上に変更されることへの対応(届出対象事業者への算出方法・届出方法の一層の周知徹底)</p> <p>P R T Rデータを活用したリスク低減の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P R T Rデータから対策の優先度の高い物質を選定する手法の開発等法の附則に基づく法施行7年後の見直し ・ 将来の制度の見直しに向けた、対象物質、対象事業者の範囲の見直しのための情報の収集整理。 ・ 我が国の現状把握及び将来の制度見直しの基礎情報としての、P R T Rデータの国際比較のための情報整備 <p>(下位目標2)</p> <p>本格的な化学物質に関するリスクコミュニケーションの推進に向けて、下記の</p>

<p>取組を拡充・強化して実施。</p> <p>情報の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 化学物質ファクトシートの作成 ・ PRTR市民ガイドブックの作成 ・ 学習関連資料等の作成 <p>対話の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクコミュニケーションの促進のための人材育成等 化学物質アドバイザー ・ リスクコミュニケーション促進ための簡易応答システムの開発・整備 ・ 効果的なリスクコミュニケーション手法の開発と普及 <p>場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「化学物質と環境円卓会議」の開催等

政策への反映の方向性

事業の改善・見直し	<p><u>理由の説明</u>(新規、<u>拡充</u>、縮小、廃止等)</p> <p>引き続き、PRTR制度の定着とそのデータの有効活用を推進するとともに、化学物質やその環境リスク等に関する市民の理解や市民・産業・行政等のリスクコミュニケーションの充実・強化を図るため、情報の整備や対話の促進に係る取組を拡充・強化することが必要である。</p>
現行のまま継続	<p><u>理由の説明</u></p>

【別紙】

事務事業シート

施策名	- 7 - (3) リスクコミュニケーションの推進	
事務事業名 (関連下位目標番号)	事業概要	主な関連予算事項等 (14年度予算)
PRTRデータの円滑な集計・公表等 (下位目標1)	<p>【1. PRTR制度の運用】 平成14年4月より事業者からの届出が開始されたことから、関係省庁・都道府県等と連携してデータ処理を行うとともに、届出対象外の排出源からの排出量を推計し、集計結果を平成15年3月にホームページ等で公表した。公表日以後、個別事業所データの開示請求の受付及び開示事務を開始した。</p> <p>【2. PRTR制度の普及・啓発】 PRTR制度、届出方法等について事業者、国民への普及啓発活動を行った。平成15年3月には、諸外国の政府及びNGOによるPRTRに係る取組についての国際シンポジウムを開催した。</p> <p>【3. PRTR制度のフォローアップ】 PRTRデータの国際比較のためのデータベースの構築、化学物質環境排出シナリオの策定に着手した。</p>	PRTR制度基盤整備事業(316百万円)
リスクコミュニケーションに必要な人材の育成等 (下位目標2)	<p>【1. 対話の推進】 リスクコミュニケーション推進のための人材育成事業として、「化学物質アドバイザー」の育成を開始した。</p> <p>【2. 場の提供】 市民・産業・行政の代表からなる「化学物質と環境円卓会議」を4回、地域フォーラムを1回開催した。</p>	化学物質環境安全社会推進費(15百万)

【別紙】 政策効果把握の手法及び関連指標

(施策名) -7-(3)-リスクコミュニケーションの推進 (下位目標番号) (下位目標1)	単位	現況値(時点)	目標値(目標年次)
(指標名) PRTRデータの集計及び公表		H15.3公表 (13年度排出・ 14年度届出分)	毎年度
指標の解説(指標の算定方法) -			
「評価に用いた資料(インターネットの公開・非公開の別)」「平成13年度PRTRデータ集計結果(公開)」	関連する事務事業名 ・PRTRデータの円滑な集計・公表等		
目標値設定の根拠、考え方 -			
特記事項 (外部要因の影響など)			
目標値の実績値			

【別紙】 政策効果把握の手法及び関連指標

(施策名) -7-(3) リスクコミュニケーションの推進 (下位目標番号) (下位目標2)	単位	現況値(時点)	目標値(目標年次)
(指標名) 化学物質アドバイザーの登録者数	人	18名登録 (平成14年度)	要すれば約50名まで拡充 (平成15年度以降)
指標の解説(指標の算定方法) 化学物質アドバイザーとして認定された人数の総数			
「評価に用いた資料(インターネットの公開・非公開の別)」「化学物質アドバイザーの募集及び派遣関連情報(公開)」	関連する事務事業名 ・リスクコミュニケーションに必要な人材の育成等		
目標値設定の根拠、考え方 リスクコミュニケーションに資するための人材の育成状況として、化学物質アドバイザーとしての登録者数を指標とする。			
特記事項 (外部要因の影響など) 平成14年度よりパイロット事業を開始。平成15年度も引き続きパイロット事業として必要な情報の収集に努める。			
目標値の実績値			

【別紙】 政策効果把握の手法及び関連指標

(施策名) -7-(3) リスクコミュニケーションの推進 (下位目標番号) (下位目標2)	単位	現況値(時点)	目標値(目標年次)
(指標名) 「化学物質と環境円卓会議」の開催	回数	4回開催 (平成14年度)	当面定期的に継続して開催
指標の解説(指標の算定方法) 場の設定回数			
「評価に用いた資料(インターネットの公開・非公開の別)」 「化学物質と環境円卓会議(公開)」	関連する事務事業名 ・リスクコミュニケーションに必要な人材の育成等		
目標値設定の根拠、考え方 リスクコミュニケーションに資する場の設定として、市民、産業、行政等の代表からなる「化学物質と環境円卓会議」の開催回数を指標とする。			
特記事項 (外部要因の影響など)			
目標値の実績値			